



ぽれぽれレター

ぽれぽれレター



理念
「人とよりそう ひらかれた病院」
病院基本方針
※安心・安全ながん医療を提供します
※医療提携を進め、地域医療に貢献します
※豊かな人間性を持った医療人の育成に努めます

診療案内
内科 外科 脳神経外科
整形外科 耳鼻咽喉科
婦人科 泌尿器科 放射線科
消化器科 緩和ケア科
乳腺外科 腫瘍外科
【診療受付時間】
午前8:30～正午
【診療時間】
平日 午前9:00～午後5:00
土曜 午前9:00～正午
【外来の休診日】
日曜・祝日・年末年始
【お見舞い時間】
正午～午後8:00



ご挨拶

彩都友誼会病院 病院長 中村仁信

2007年9月にオープンした彩都友誼会病院も今年で早5年が経過しようとしています。その間、彩都にも新たなマンションや商業施設また医療施設が加わり、町並みも様変わりしました。その変化に伴い、人の流れも変わってきたように思います。当院は設立当初から「がん専門病院」を目標にして参りました。5年間に内部の体制作りや教育を行うことで2010年3月には日本医療機能評価機構が定める認定基準を達成し、同年5月に緩和ケア病棟開設、さらに同年10月には待望の「がん専門病院」の認定（民間病院としては日本で2番目）を取得しました。またさらに今月、大阪府の「がん診療拠点病院」としての認可を得ました。

まだまだ新しい街である彩都には様々な“息吹き”が芽生えようとしています。その中のライフサイエンスパークに位置する私たち彩都友誼会病院が、がん患者救済に少しでも貢献できる病院となるように邁進して参ります。

新入職員紹介

2012年4月、また新たな仲間が彩都友誼会病院に加わりました。医師2名、看護師11名、理学療法士1名、看護助手2名の皆さんです。新たなメンバーが加わったことで院内にも春のさわやかな風が吹き始めています。新メンバーを加えると現時点で医師15名、看護師134名、薬剤師8名、診療放射線技師12名、臨床検査技師3名、理学療法士4名・作業療法士1名・言語聴覚士1名、管理栄養師3名、看護助手25名、クラーク6名、SE1名、診療情報管理士2名、医事課7名、総務4名、地域医療連携4名、秘書2名、保育士7名、保育助手3名 総勢242名となります。その他、外来診療については約30名の非常勤の先生方にご協力を頂いています。

この4月より当院は大阪府が認可する『がん診療拠点病院』となりました。がん専門病院としてはとても幸先の良い新年度のスタートです。平成24年度、当院の年度目標のメインは、がん専門病院としての質の向上です。当院の特徴である緩和ケアの充実に加え、がんの診断・治療にスタッフ全員が連携し協力しあいながらより質の高い診療の実現を目指します。

厳しかった冬もようやく退き、鳥のさえずりや木々の芽生え、そして待望の桜の開花が訪れました。この「ぽれぽれレター」が発行される頃には彩都の地名のごとく、そこここに花が咲く彩る街となっていることでしょう。この街で皆さんに信頼され親しまれる病院となるように努力してまいります。



- ・院内勉強会：毎週火曜日
- ・カンファレンス：毎週月曜日
- ・専門分野の勉強会：随時案内
- ・各種委員会：随時開催

「こんにちは！」



3階病棟看護師
日吉華代さんのお子様です
日吉菜緒（なお）ちゃん
平成23年8月25日生まれ
☆初節句です☆



WHO（世界保健機構）では「緩和ケアとは、患者と家族の苦痛を早期に同定し適切に対応することで、患者と家族の生活の質（Quality of Life）を改善すること」と定義しています。このことをふまえて私たちは、がん治療のすべての期間において、患者さんご家族（患者さんを大切に思っている方たち）の苦痛からの解放を目指すケアと考えています。そして、患者さんが主人公としての人生の物語性を大切に考え、優しさと思いやりのあふれる緩和ケアの実践に努めていきたいと考えています。

当院の緩和ケア外来・緩和ケア病棟・緩和ケアチームの特色

私たちの緩和ケアの目的は、二つあります。一つは、がん治療のすべての期間において、患者さんご家族の苦痛をできるだけ和らげることです。もう一つは、残された限りのある時間をできるだけ有意義に過ごせるようにすること、そして苦しむことなく静かに最期を迎えられるようにすること、と考えています。

がんの治療中の患者さんには、その診療科の医師と協力して苦痛の緩和をすることで治療の継続に努めます。積極的ながん治療を終えた患者さんには、緩和ケアにスムーズに移行できるように心がけています。

自宅療養中の患者さんの場合、緩和ケア外来に通院しながら苦痛症状の緩和を行います。苦痛症状のコントロールが外来通院では難しくなってきた場合には、緩和ケア病棟への入院で対応します。症状が和らいだら再び自宅へ戻り外来通院することができます。入院中の患者さんの場合、がんの治療中であればその診療科の病棟で、積極的ながん治療を終えている患者さんの場合は緩和ケア病棟で対応しています。

当院の緩和ケア病棟は2010年5月に開設されました。そこでは入院生活上の制約をできるだけ減らし、患者さんがその人らしい尊厳を保つことができ、心地よく過ごせるように心がけて環境整備をしています。

がんを抱えている患者さんには、さまざまな苦痛が混在しそれぞれが複雑に絡み合います。このように一人の患者さんが抱える苦痛のことを全人的苦痛といい、身体的・精神的・社会的・スピリチュアルの四つの面で評価しケアの方法を検討します。身体的な苦痛とは、痛みや息苦しさ、だるさなどの症状のこと。精神的苦痛とは、不安や気分の落ち込み、いらだちなどの心の辛さのこと。社会的苦痛とは、病のために仕事を失うこと、そのために生じる経済的な問題、家庭や職場、地域での役割を果たせなくなったことから生じる心の辛さのこと。スピリチュアルペインとは、病を患ったときに改めて感じる自己の存在価値や人生の意味、病を患った理由（例えば、何らかの罰なのか）などから生じる心の辛さのことをいいます。私たちは、身体的苦痛を和らげるだけでは患者さんが抱える苦痛を十分に緩和することはできないと考え、多職種で構成するチームで、それぞれの専門性を活かしたケアを行っています。私たちのチームは医師・看護師・薬剤師・管理栄養士・臨床心理士・リハビリ療法士・社会福祉士・ボランティアなどで構成されています。そして質の高い緩和ケアを実践するために、薬物療法のみならず栄養療法・運動療法にも力を入れています。

緩和ケア病棟への入院の対象になる方

- ① 積極的ながん治療を終えている方
- ② 身体の症状（たとえば、痛みや息苦しさ、だるさなど）や心の辛さを抱えている方

原則は、①・②を満たす方を対象としていますが、個々のケースで状況が異なりますので、緩和ケア外来でご希望をお聞きしています。



ぶらり茨木... まだま村

モノレール彩都駅から北東方向へおよそ10分から15分、車を走らせた山の中に「茶房まだま村」があります。周囲を竹林に囲まれたこのお店はいわゆる隠れ家的カフェとして、人気を集めています。築200年の古民家の古材を使用した円錐状のお店は、一歩入ると床が地面より1メートル掘り下げて作られており外観からは想像がつかないほど広々としています。中には囲炉裏やちょっとした個室風の席もあり、何時間でもゆったりできそうです。お昼はランチとしても利用でき、1番人気は「縄文ランチ」という要予約で限定20食というプレートランチになります。内容は10数種類の自家製もしくは近隣で採れた野菜を中心とした惣菜が1つのプレートに並べられ、玄米とみそ汁、食後の飲み物がつきます。



す。調味料も無添加の物が使用されており、採れたての地野菜そのもののおいしさを感じることができます。

病院から10分ちょっとのところに、こんな別世界を感じられる場所があるのは驚きです、みなさんも是非一度足を運んでみてください。（中嶋）

店名 まだま村（マダマムラ）
TEL 072-649-3800
住所 大阪府茨木市大字千提寺428
交通手段
【阪急バス】
千里中央より25・28系統余野行き（毎時1本）
JR阪急茨木より81系統忍頂寺行き（毎時1本）
千提寺口下車 徒歩14分
【車】
彩都西駅から北東方面へ3,625m
営業時間 11:00～17:00
定休日 毎週 月曜&火曜日（※ただし祝日の場合は営業）



縄文ランチ 1500円

編集後記：新年度を迎えるにあたり、このほれほれレターの編集委員も大幅にメンバーチェンジしました。今まで同様、院内のネタや役立つ情報をこの紙面を通じてお届けできるようがんばります(F)
発行者：中村仁信（病院長） 〒567-0085 茨木市彩都あさぎ7丁目2番18号
編集長：福西康修（放射） TEL072（641）6898 Fax072（641）6097
編集委員：中嶋真一郎（医師）森下孝子（看護）橋本千佳子（健診）常島啓司（情報）
岩井惇子（薬剤）寺内香澄（放射）

<http://www.saito-yukoukai-hp.jp/index.htm>

「ほれほれ」はホームページからダウンロードできます！

このニュースレターご希望の方は総合受付・地下受付にお越し下さい